広坂の賑わい創出と伝統産業製品の若者に向けたPR

学生団体名　石川で学び隊（金沢学院大学）
参加学生　　新津梓・佐々木理沙・西皆美・市川美咲・小泉織絵・小林裕世・寺中睦姫
　　谷口菜穂・山本杏樹

１．地域活動の概要

私たちはこれまでも広坂商店街と連携し、広坂や石川県の伝統産業の現状について理解を深めてきた。県の様々な伝統工芸品が並ぶ広坂商店街では、若者が気軽に立ち寄りにくい印象がある。理由として、商品が若者に不向きな高価格であること、また、普段から日用品として使用するイメージが無いことが理由として挙げられる。これらを解決し、もう一歩立ち寄りやすい場所へとイメージチェンジし、若者に伝統産業製品が魅力的であるという意識を生み出したいと考えた。そこで、キャラクターやプロジェクションマッピングを使用した若者目線での地域づくり、デザインの視点から様々な活動に取り組んだ。

２．地域活動の具体的な内容

- 実施日時　６月１日～２月末日
- 実施内容　（１）フィギュア製作
　　（２）体験イベント実施
　　（３）意見交換会
- 参加者数　学生９名

【活動の内容】

（１）フィギュア製作

石川県でフィギュア関連の仕事をされている方に協力を依頼し、フィギュアを製作した。当初計画していた予算での製作全ての依頼が難しく、ノウハウだけを教えていただきながら、学生がフィギュア作りを担当する方向で活動がスタートした。そのため、計画していた製作期間より遅れが出た。２月末には全３体のフィギュアを商店街にて設置完了する。

（２）体験イベント実施

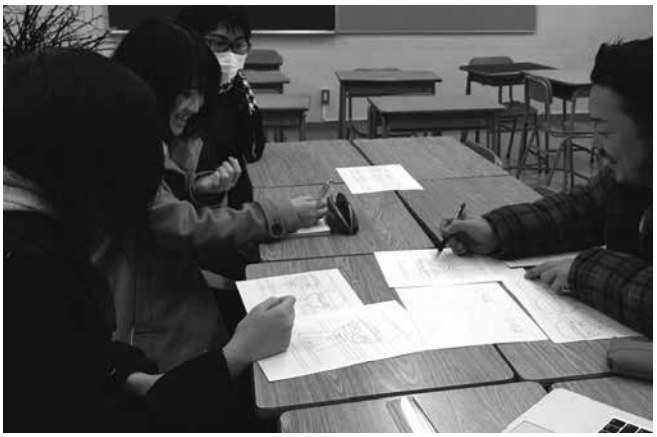
１０月８日（土）に広坂通りにある Gallery＆Workshop Colony にて、九谷焼の柄を使用したプロジェクションマッピングの体験イベントを実施した。さまざまな絵柄がある九谷焼の中で、大胆な絵付けが特徴の古九谷を参考に、Illustrator や Photoshop を使用し細かな滲みも再現しながら、背景・模様・絵柄など合わせて３０種類のパーツを作成した。イベントには金沢学院高校へ呼び込みを行い、当日、約４５名の高校生が集まり体験を楽しんでくれた。

（３）意見交換会

２月３日（金）に歌劇座にて、広坂商店街の方々と金沢学院大学の学生が集まり「若者と伝統工芸」をテーマにし、意見交換会を実施した。若者が伝統工芸に惹きつけられるためはどんなことが必要なのか、広坂の目線と同世代の若者目線を持つ学生が意見を交換し、これからの活動に向けて参考になる有意義な時間となった。

【活動の様子】

[フィギュア製作]



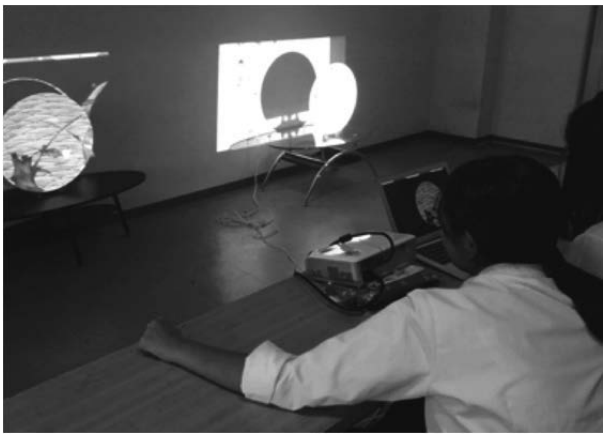
（打ち合わせの様子）

（フィギュア製作中の様子）

（フィギュア　原型完成）

[体験イベント実施]

（パーツ作成の様子）



（高校生が体験している様子）

[意見交換会]

（意見交換会の様子１）

（意見交換会の様子２）

３．地域活動の成果

フィギュアの製作では、予定していたスケジュールよりも時間がかかってしまったが、体験イベントに参加してくれた高校生に、キャラクターについて話しをすると、今までの活動の成果もあり、存在を知ってくれている若者が多いことを実感することができた。今後フィギュアを通して、さらに広坂商店街キャラクターとしての認知度を広めていきたい。

また、イベント体験後、参加者にアンケートで感想を集めたところ“楽しかった”“良い体験ができた”“皿に絵を直接描いている職人はすごいと思った”という声を多く聞けた。プロジェクションマッピングでパーツの配置を考えさせることで、九谷焼がどのように絵付けがされているのか、伝統工芸品の見方を普段と違った目線で見せることで、魅力に気づかせることができた。地域の方や高校の先生方からの評判も良く、来年度も続けて欲しいという声も頂いた。

４．来年度の地域活動計画

今年度は、キャラクター展開に力を入れ活動をしてみたが、まだ認知度を上げる仕掛けが出来てないことに気づくことができた。そのため来年度からは、仕掛けづくりを中心に活動をしていく。また、伝統工芸の柄を使用したプロジェクションマッピング体験は評価がとても高かった為、来年度からも続ける予定。

５．学生の感想

フィギュア製作をしたのは初めての体験で、ただキャラクターをフィギュア化するのではなく、イメージに近づけるためにはパーツの付け方や、素材の選び方など、色々工夫をしなければならないということを知ることができた。また、九谷焼の柄を使用したプロジェクションマッピング体験では、時間が足りなくなってしまうほど高校生がイベントを楽しんでくれて、集めた感想にも伝統工芸の魅力に気づいてくれているコメントが多く、やって良かったと思いました。

６．地域活動に対する地域からの評価

体験イベントで参加してくれた若者や、今まで一緒に活動してくれた学生さん達が、広坂や伝統工芸に興味を持ったと聞いて、連携活動をしてきて良かったと思えました。また、その人達が広報をしてくれて良さを他の人達に伝えていってくれればと思います。これからも、さらに連携を強めていきたいと思います。